

編集後記

『芸術世界』第16号が完成した。第1号から第5号までは『東京工芸大学芸術学部紀要』と称していたが、創刊当時編集に携わっていた者として本紀要の発展は殊更感慨深いものがある。最初の委員は三学科の代表である山本晃、遠藤三郎、森典彦の各先生に基礎教育の私を加えた4人だけで、事務から鈴木荘二さんが出席されていた。発足したての芸術学部はすべての面で創設の困難と喜びに直面していたが、紀要編集も御多分に漏れず、何もかもが初体験であり、一から始めなければならなかった。森委員長を中心に、芸術学部にとって最も望ましい紀要のあり方が、真剣に討議された。論文と作品の二本立て形式とすること、A4版の大型冊子を採用すること、表紙も作品発表の場として活用すること、などが基本方針として確認された。

創刊号の抜き刷りを差し上げた年上の友人からは、「あなたの大学の紀要だけが大きすぎて本棚に収まらない」などと、皮肉を言われたこともあったが、今ではむしろこの大きな版が紀要や学会誌の主流になっているのではあるまいか。第1号から第15号までを並べてみると、それぞれの表紙が発する迫力に圧倒される。既に小規模な「表紙展」が開催できそうだが、これが倍の30号に達したら、さぞ壮観であろう。ここ数年は退職される先生に表紙の制作をお願いしてきたが、今回は畑鉄彦先生に白羽の矢が立てられた。この表紙写真は、紀要の第1号と第4号に畑先生が掲載された作品群と一緒に観賞する時、理解が一層深まるだろう。

『芸術世界』は紙媒体ということで、専門学科の先生方にとっては作品発表に多大な困難が伴う。しかし過去の作品を振り返ってみると、先生方が斬新な手法を意欲的に試みることによって、発表形式を豊かにしてきた過程が、くっきりと浮かび上がってくる。来年度からはインタラクティブメディア学科、ゲーム学科、及びデザイン学科デジタルコミュニケーションコースが新たに発足するが、これら諸学科の先生方を含めて、より多くの方々が紙面を活用してくださることを、切に願っている。

平成22年3月 紀要編集委員長 白倉克文

芸術世界

東京工芸大学芸術学部紀要 Vol.16

2010年3月31日 発行

編 集	東京工芸大学芸術学部 紀要編集委員会
発 行	東京工芸大学芸術学部 〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 Tel. (03) 3372-1321 Fax. (03) 3372-1330
印 刷	有限会社 啓文堂 松本印刷 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12